

## 地図帳って、情報いっぱい楽しい本だね！

～地図の基礎指導で、地図好きな子どもを育てたい～

帝国書院 広報室

### ■ 地図指導のススメ

「地図の見方がわからない」「ごちゃごちゃしていて地図が嫌い」という子どもの声や、「地図指導のポイントがわからない」「どのように授業の中で使えばよいのか」などの先生方の悩みの声をよく耳にする。

地図好きな子どもを育てたいという強い願いを込め、また上記のような悩みを解消すべく、広報室（旧 地図・地理普及班）が地図帳\*の出前授業を行うようになって、7年が経過した。おもに4年生を対象とし、地図帳の見方・使い方の基礎指導を実施している。

指導内容は、①さくいんの引き方、②地図記号、③土地利用の見方、④縮尺と距離についてである。これらの項目は、小学校段階で、最低限身につけさせておきたい地図の技能である。

実施校の先生方との打ち合わせにおいては、それまで教室で地図帳をどれくらいの頻度で活用しているか、子どもたちの地図技能はどの程度定着しているか、などをうかがう。

各学校や先生方により、活用頻度は異なるが、大半の先生方は、「社会科の授業の際に出てきた地名を地図から探させる」「教科書を進めるのに手いっぱい、なかなか地図帳にまで手が回らない」など、思うように地図を活用しきれていないというのが、現状のようである。

出前授業において、私たちはまず、『地図は一見細かくて難しそうだが、使い方やコツ・

\*「楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版」

ウラワザを身につければ、誰でもどんどん使いこなせるようになる』というように、子どもの抱えている地図に対する苦手意識や無意識のうちに設定している高いハードルを取り除いてあげることから始めている。導入に簡単な地図クイズを行うことで、子どもたちも地図への抵抗が少しずつ和らいでいくのが感じられる。

また、出前授業において終始徹底しているのは、「調べた地名には必ず赤丸で印をつける」と指導していることである。そうすることで、どこにも売っていない、自分だけのオリジナルな地図帳ができるのである。また、その後も随時印をつけていくことにより、過去に調べた形跡も一目瞭然となる。

### ■ 繰り返し指導したいさくいんの引き方

指導のポイントとして私たちが最も重要と考えているのが、①さくいんの引き方である。

出前授業においては、たとえば長野市を取りあげ、まずページ（p.31～32）を開いて、そこから長野を探させる。このとき、子どもたちは小さい文字（長野盆地の長野）を探して印をつけている場合もあるので、「大きな太い文字で書かれているところだよ」と、一言つけ加えることを忘れないようにしたい。この際に、長野の都市記号●についても併せて確認する。

次に、地図には青い線（経・緯線）が引かれ、ページ上下にはア・イ・ウ…と書かれた青い水玉💧と、左右には1・2・3…と書か

れた赤い水玉🔴があり、この二つを組み合わせることで、地図の「番地」が作られることを説明する。

地図には「番地」（経・緯線で区切られたマス目）があることを理解でき、長野が何番地にあるか地図で確認したあとで、今度はさくいんの中から長野を探す。そうすると、地図の中から見つけた長野の番地と、さくいんに載っている長野の番地が全く一緒であることに子どもたちに驚き生まれるのである。

このように、少々時間はかかるが、まず地図から入ってさくいんへという帰納的な方法をとることで、さくいんの便利さや探すスピードが格段に速くなることを身をもって体験できるのである。

さくいんを使った地名探しの練習問題では、クラスメイトの名字と同じ地名（小林、上田、橋本など）やアニメに関連する地名（鳴門、春日部、湖南など）を出題している。それらを調べて探すことで、子どもたちは興味を持ちながらさくいんの引き方を楽しくマスターすることができる。

さくいんの指導で心がけたいのは、繰り返し練習する機会を設けることである。

また、先に挙げた指導内容②（地図記号）③（土地利用）についても少しふれたい。子どもたちは地図を見る際に、文字情報を追うのに精一杯で、ほとんどといってよほど記号や色に注目できていない。授業では、地図の記号や色を意識し読み解くことで、土地の様子がわかることを紹介している。

### ■ 現場の実態を地図帳に反映

出前授業から逆に私たち自身も学ぶところが大変多い。子どもたちの理解度がわかり、

実際に記載内容を変更した点もある。

たとえば、指導内容④（縮尺と距離）に関連した内容として、縮尺の記載方法が挙げられる。

以前の地図帳では、縮尺の記載は1:1,000,000という比の表現のみであったが、実際に比を算数で学習するのは、6年生になってからである。そこで、地図帳を持ち始める4年生の児童にも、縮尺の大きさが理解できるよう、改訂の際に、比の表現だけではなく、（100万分の1）という分数も併記するようにしたのである。

### ■ 地図を活用できる子どもに

授業後、子どもたちからは、「地図の青い線や水玉マークは何のためにあるのだろうか」と思っていたけど、さくいんを使うときに役立つものだとかわかってすっきりした」「地図帳はごちゃごちゃしていて嫌いだったけど、コツがわかって大好きになった」などの感想が寄せられることがよくある。

ほんの1コマの基礎指導で、それまで子どもたちにとっては疑問であった地図の謎が解かれ、いろいろな情報が載っている便利で楽しい本という認識が変わる。

地図を初めて手にしたときに、ほとんどの子どもたちが持っている地図に対する興味・関心を、基礎指導によって、実際に活用できる喜びへ広げ、ひとりでも多くの地図好きな子どもを育てたいという強い願いを持ちながら、地図活用の新たな道を引き続き追究していきたいと考える。

※弊社ホームページに今回ご紹介した地図の基礎指導案を掲載しております。是非ご覧いただき、先生方ご自身の教室で実践していただければ幸いです。☞URL <http://www.teikokushoin.co.jp/howto/index17.html>